



MDM移行のススメ

モバイルデバイス管理ソリューションの移行ガイド

ビジネス向け



あなたにとってベストなMDM

モバイルデバイス管理 (MDM) の必要性が明白なものになる中、MDMを提供するベンダーの数も急増しています。しかしその内容にはばらつきがあり、使用中のツールに満足していない組織は、管理やセキュリティに関する特定のニーズに細かく答えてくれるソリューションへの乗り換えを検討する傾向にあります。

Windowsのエコシステム拡張を望むのなら、Microsoftのソリューションを選ぶのが自然です。Googleも自社のエコシステムへの投資を続けています。そしてもちろんJamfは、Apple製品の管理とセキュリティのスタンダードです。すべてのエンドポイントにとって最適なソリューションは存在せず、どの組織もそれぞれのニーズとエコシステムにとって適切なソリューションを模索しています。

MDMの移行を検討していますか？

MDMソリューションの切り替えには、さまざまな理由が考えられます。現在のプロバイダが希望のサポートを提供していないケースや、より堅牢なツールを探しているケースもあるでしょう。いずれの場合も、ベンダーの切り替えは必ずしも負担や煩雑さを伴うものである必要はありません。





Appleに特化したソリューションがもたらす メリット

Jamf ProやJamf Nowを開発したJamfは...

Mac、iPad、iPhone、Apple TV等のデバイス管理のスムーズな切り替えを希望する多くの組織のお手伝いをしてきました。

組織のニーズを満たすソリューションへの移行
をお考えですか？

本ガイドでは、このような変化に備えて、業務への影響を最小限に抑えながらデバイス管理を移行させるために必要なステップを説明します。

本ガイドのトピック

- ✓ 移行のタイムラインと留意すべきポイント
- ✓ 移行に向けたチェックリスト
- ✓ 移行を成功させるための詳細なワークフロー



無理のない スケジュールで 移行を成功に導く

JamfのMDMソリューションへの移行を決心したら...

まずは、合理的かつ達成可能なスケジュールを用意しましょう。これには、重要なマイルストーンや財政的な考慮事項、休日、導入の成功に影響を与える可能性のあるその他の要因を考え合わせる必要があります。

考慮に入れるべき重要なポイント



1つのデバイスに登録できるMDMプロファイルは1つだけです。つまり、JamfのMDMに登録する前に既存のMDMプロファイルを削除する必要があります。

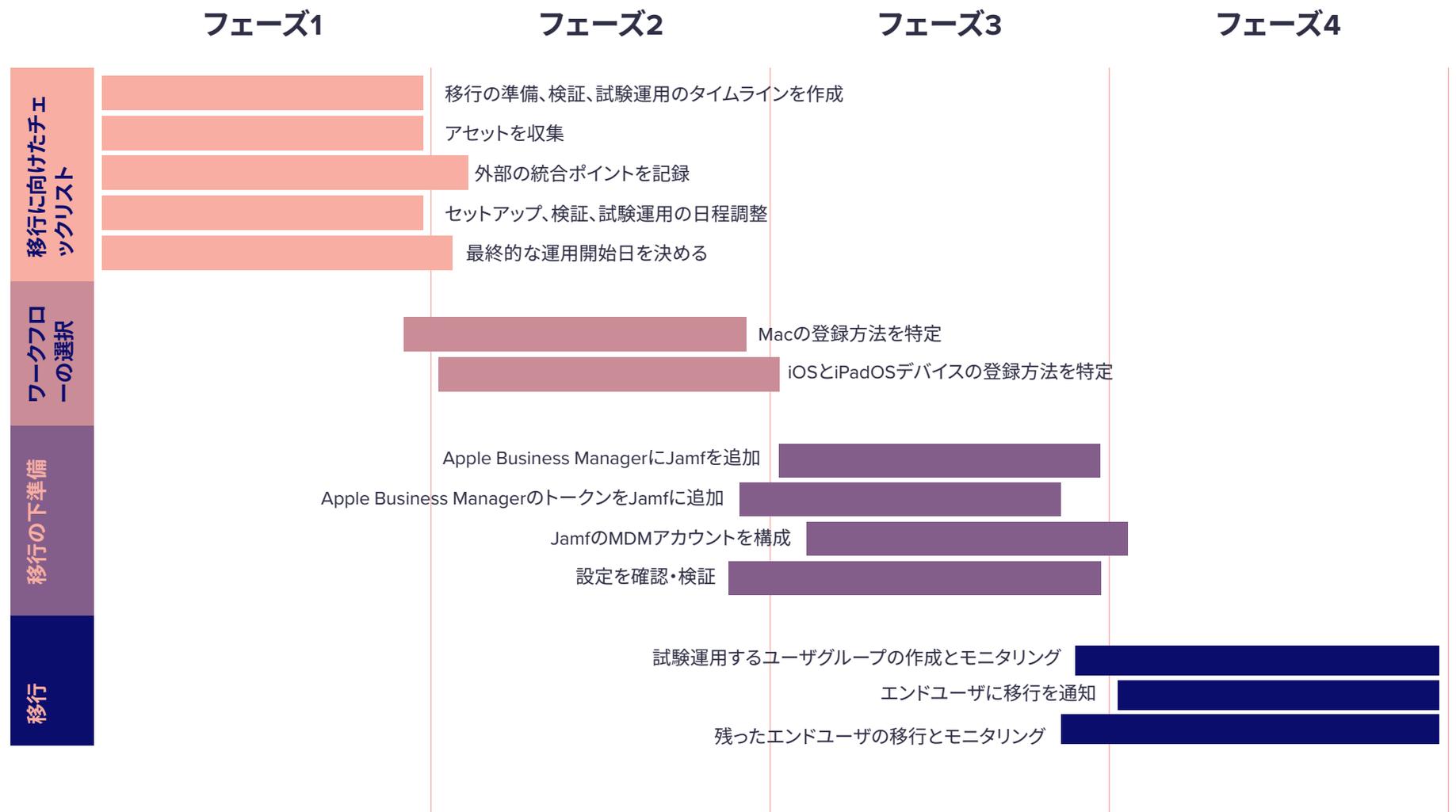


ソリューションの購入から移行完了まで十分な時間を見積もっておくことをお勧めしますが、このプロセスはあなたの希望次第で遅くも速くもなります。導入前に不具合を発見できるように、プロセス全体を通じて検証の時間を確保することが重要です。



JamfのMDMへの移行を成功させたお客様からいただいたフィードバックを元に、MDM移行のタイムライン例を用意しました。スケジュール作成の参考にしてみてください。

移行タイムライン



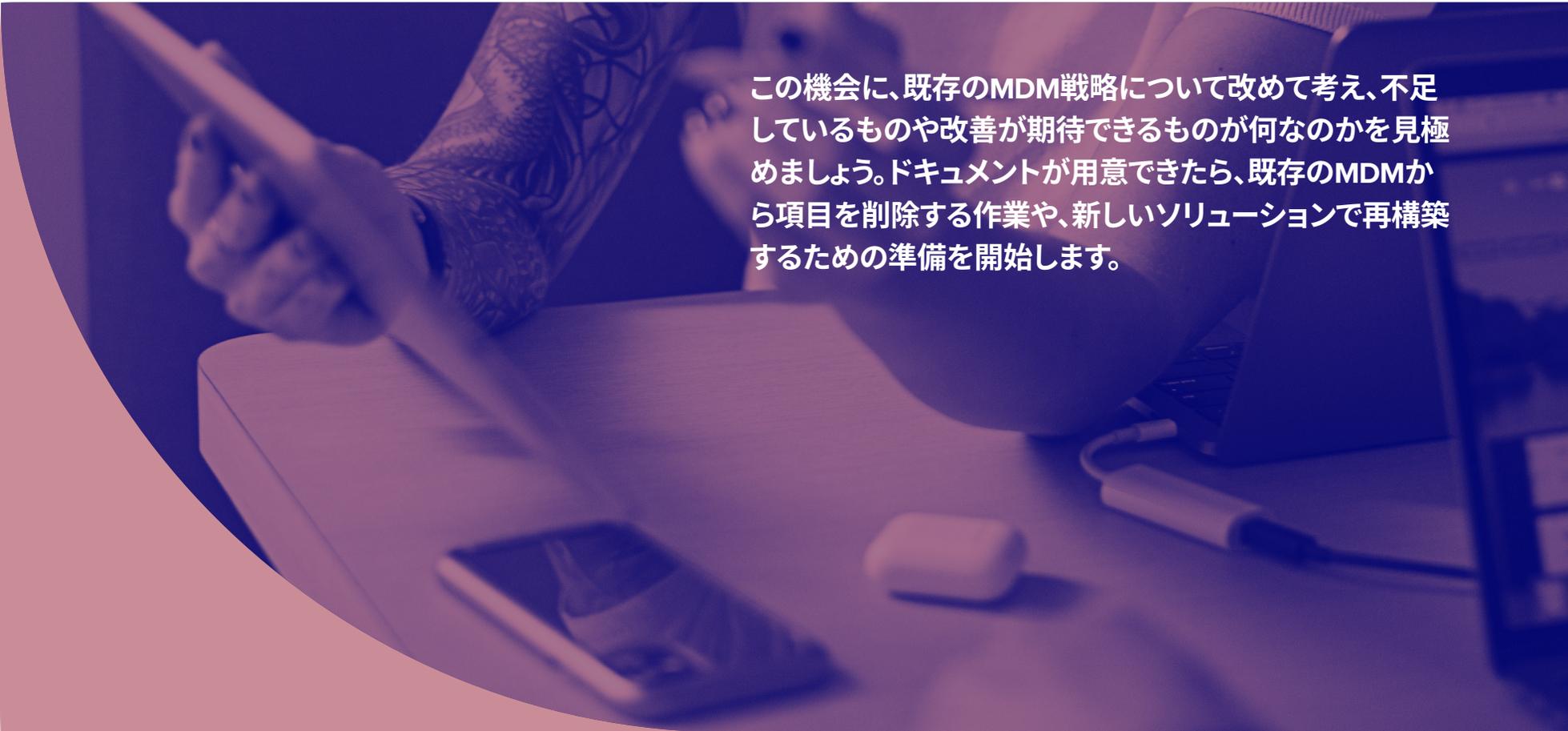


MDM移行に向けた 準備を始める

今回の移行がMac、iPhone、iPadのいずれの場合でも、このガイドの内容をぜひ参照してください。以下のステップはどのAppleデバイスの移行プロセスにも当てはまります。

もしまだの場合は...

JamfのMDMへの移行に先駆けて、既存の管理ソリューションに対して必要な準備を行なってください。既存のMDMをどのように使用しているかについて詳細なドキュメントを作成し、必要不可欠なワークフローや設定を書き出しましょう。このステップは、以降のプロセスが始まる前に必ず行う必要があります。



この機会に、既存のMDM戦略について改めて考え、不足しているものや改善が期待できるものが何なのかを見極めましょう。ドキュメントが用意できたら、既存のMDMから項目を削除する作業や、新しいソリューションで再構築するための準備を開始します。

フェーズ1 移行に向けたチェックリスト



メモ: Jamf Professional Servicesは、業界のベストプラクティスを用いて、組織のコンプライアンス基準に合ったMDMに切り替えるお手伝いをします。セキュリティの面で妥協することなく、できるだけシームレスな移行プロセスをお求めの場合、ぜひご相談ください。



ヒント: 移行プロセスのほとんどはあまり時間がかからないことが多く、これが誤解を招くことがあります。導入の際には「8対2の法則」を念頭に置くことをお勧めします。

「多くの場合、最後の2割のデバイスの登録に全行程の8割の時間がかかります。エンドユーザからの反応が遅かったり、デバイスがオフラインになっていたり、さまざまな理由が考えられます」

移行の準備、検証、試験運用のタイムラインとスケジュールを作成

この移行プロセスは、組織のニーズに合わせて好きなペースで進めることができます。現在のプロバイダとのサービス契約終了日など、特定の期限がある場合、またはビジネスの繁忙期やピークシーズンが近い場合など、状況によってスケジュールを調整しなければならない場合もあるでしょう。また、他にもタイムラインを作成する際に考慮に入れるべき点がいくつかあります。

- ✓ 既存のMDMに特手の期限(サービス終了日など)はあるか?
- ✓ Jamfの製品について十分な知識を持っているか?(そうでない場合は、Jamf Professional Services までお問い合わせください)
- ✓ 移行の準備に必要なアセットを集める時間は確保できているか?
- ✓ 移行後にデバイス登録の検証をするための時間の確保はできているか?
- ✓ 試験運用グループに誰を参加させるか、検証後どのタイミングで試験運用を行うかは計画できているか?
- ✓ 最終的な導入のスケジュールは決まっているか?

フェーズ1:移行に向けたチェックリストの作成(続き)

アセットの収集

- Wi-Fiプロファイル
- セキュリティ証明書
- スクリプトまたはその他のワークフローオブジェクト
- インストーラパッケージとアプリ
- デバイスのインベントリ
- 構成プロファイルまたはブループリント
- グループメンバーシップとユーザ

Apple Business Managerに登録されたデバイスを移行する場合、デバイスからすべてのコンテンツを消去する必要があります。ですがその前に、どのようなユーザデータを残す必要があり、それをどのように行うのかを決めておかなければなりません。まずはどのデータがローカルにあり、どのデータが他の場所でホストされているかを確認しましょう。例えば、メールはIMAPやExchangeサーバーに保存されていることが多く、デバイスのセットアップ後に簡単に再ダウンロードできます。ファイルによっては、クラウドサービスに保存されていていつでも好きな時にアクセスできるものもあります。



Apple Business Managerとは?

Apple Business Managerは、Appleが提供するITチームやビジネス向けの無償プラットフォームで、MDMソリューションと組み合わせることで、デバイスの導入、アプリの導入や購入、コンテンツの配布を自動化することができます。

外部の統合ポイントの記録

重要なビジネスプラットフォームとのつながりを維持するために、すべての統合ポイントが細かく記録されたドキュメントを用意しましょう。これにより、重要な認証情報や構成が保持され、Jamfの導入プロセスにかかる時間を短縮することができます。

- ☑ Apple Business Manager - Apple IDとパスワード
- ☑ Appleプッシュ通知サービス (APNs) - Apple IDとパスワード
- ☑ APNsの認証情報をJamf用に新たに作成
- ☑ LDAP統合またはSSO
- ☑ Jamf CloudとActive Directoryの間にコネクタを設置する必要があるか確認

証明書サービス

Jamfは、Active Directoryを含む多くの認証局やサービスとの統合を提供しています。現在の環境について以下のような点を確認しておけば安心です:

- ☑ SCEPやSCEPプロキシへのコネクティビティを構成しておく必要はあるか
- ☑ Active Directory 証明書サービス (ADCS) へのコネクティビティを構成しておく必要はあるか

フェーズ2

デバイス登録の戦略を選択

Mac

標準的な移行

もっとも一般的な方法で、既存の管理ソリューションを取り除いてJamfをインストールする必要があります。このワークフローは、スクリプトまたは手動で実行できます。

スクリプト: 既存の管理フレームワークを削除してJamfソリューションのインストールにエンドユーザを誘導する、Jamf Professional Servicesが開発したワークフロー。

手動: エンドユーザがテクノロジーに精通している場合、またはMacの台数が少ない場合は、これらの手順を手動で実行することもできます。既存の管理ソリューションからMacを取り除き、ユーザ主導型登録機能を利用してJamfへの登録をユーザに促します。この機能は、動的なメールリンクまたは静的な登録ポータルを介してアクセスすることができます。

iOS/iPadOS

自動デバイス登録

iOS/iPadOSデバイスにとってもっとも一般的な移行方法で、Apple Business Managerと連携しながらデバイスのワイプ、Jamfへの登録、プロビジョニングを行う必要があります。

このワークフローでは、デバイスが自動的に監視されるため、より高い管理能力が発揮されます。

ユーザ登録

個人所有のiOSやiPadOSデバイスを登録または移行する方法です。管理者は、2つの異なるユーザ登録方法から選んで構成を行うことができます。

アカウント駆動型ユーザ登録: アカウント駆動型ユーザ登録を使用する場合、ユーザが管理対象Apple IDを使用してデバイスへのアクセス認証を得た段階で登録プロセスが開始します。ユーザは登録ポータルにリダイレクトされ、デバイスにMDMプロファイルをインストールするよう促されます。

プロフィール駆動型ユーザ登録: デバイスのSafariで登録用URLを開くと、Jamf Proが起動します。

フェーズ3

移行の下準備： Apple関連の準備

Apple Business Manager

購入ライセンスの移行

実際の移行プロセスが始まる前に、注意しないと見過ごしがちないくつかの事項について前もって対処しておきたいものです。

まずは、MDMの移行と管理の成功に不可欠なApple Business Manager関係の作業です。

- Apple Business ManagerにJamfを追加し、デバイスの再割り当てを行います。
- 次に、Apple Business Manager内でロケーションを作成し、Jamfのインスタンスに新たなApple Business Managerトークンを追加します。

最後に、一括購入ライセンスを新しいロケーションに移行するか、ライセンスを追加購入します。



フェーズ3

移行の下準備： Jamfを構成

Jamf Proにパッケージインストーラをアップロード
Jamfで構成プロファイルまたはブループリントを作成
デバイスのオーガナイズ

Jamfにすべてを移行する前に、デバイスの登録と導入に向けてJamfインスタンスを必要な形に設定しておきましょう。Jamf Proに移行する場合は、Google Chromeなどよく使われるプログラムのパッケージインストーラをこのタイミングでアップロードしておく便利です。アプリのパッケージ化が必要な場合は、購入したJamf Pro、またはJamf Fundamentals、Jamf Business、Jamf Enterpriseの各プランに無料で含まれるJamf Composerを使用できます。

次に、Jamf Proで構成プロファイルを作成するか、Jamf NowやJamf Fundamentalsプランに移行する場合はブループリントを作成します。このとき、フェーズ1で集めたアセットのリストが役に立ちます。以前のMDMで使っていたものすべてを再び揃え、必要に応じて新しい要素やワークフローを追加することができます。

Jamf Proユーザは、組織のニーズに合わせてより細かく導入を調整するために、カスタムスクリプトをインスタンスに追加することも可能です。スクリプトは、Jamf Proの環境を最大限に活用するための強力なツールと言えます。追加するスクリプトがある場合は、このタイミングで追加してください。



フェーズ3

移行の下準備： 設定の確認と検証

Jamf ProでPreStage Enrollment (事前登録)、スマートグループ、ポリシーを作成、またはJamf Nowでブループリントを作成

移行とプロビジョニングのワークフローを検証

構成が整ったところで、PreStage Enrollment、スマートグループ、ポリシーなど、AppleとJamfの力を最大限に引き出すための具体的な設定をいくつか行ってみましょう。全体的な移行を検証する前に、必ずこれを行う必要があります。

- PreStage Enrollmentでは、登録構成を作成してAppleと同期させることができます。これにより、Jamfで新しいコンピュータを登録できるようになり、コンピュータの準備にかかる時間と手間を省けます。この過程で、登録設定を定めたり、設定アシスタントのユーザエクスペリエンスをカスタマイズすることもできます。
- Jamf Proでは、管理対象となるコンピュータやモバイルデバイス、ユーザのスマートグループを作成することができます。スマートグループは、1つ、またはそれ以上のインベントリ属性に基づいて作成されます。Jamf Nowの場合は、ブループリントを使用することで、デバイスのグループに対してアプリや設定をカスタマイズして導入することができます。
- ポリシーは、管理対象のコンピュータに対して遠隔操作で一般的な管理タスクを実行するためのものです。タスクが指定した頻度で実行されるように自動化することができ、Jamf Proでポリシーを使用することで例えばスクリプトの実行、アカウント管理、ソフトウェア配布なども可能になります。
- Jamf NowまたはJamf Fundamentalsプランの場合、ブループリントを使用することで、デバイスのグループに対してアプリや設定を簡単にカスタマイズおよび導入することができます。複数のブループリントを作成して、デバイスごとに異なるアプリや設定を導入するよう設定することも可能です。



フェーズ4 移行

エンドユーザーへの通知

試験運用グループの移行を開始
(モニタリングとワークフローの見直し)

残りのデバイスの移行

ここからは実際に移行を行う段階に入ります。実際の移行作業自体は正しく行えばすぐに終わるはずですが、検証や調整に時間がかかる場合もあります。特定の期限がある場合は、最初にタイムラインを作成する際にこのことを考慮に入れるようにしましょう。

移行を成功させるためには、エンドユーザーに対して透明性を保つことが重要です。ユーザーが気づいていないとしても、MDMによって管理されるのは彼らのデバイスだからです。ユーザー登録において彼らの協力が必要となる場合は特に、移行についてできるだけ早い段階でクリアに伝えることが大切です。**ファイルのバックアップが必要な場合は、その方法も含めて通知することをお勧めします。**

Macをワイプおよび再インストールしない場合は特に、事前に選択したデバイスで構成される「試験運用グループ」の移行から始めましょう。このグループのユーザーエクスペリエンスをモニタリングし、必要に応じて以降のワークフローを調整します。

試験運用グループの検証が完了したら、残りのエンドユーザーのデバイスを既存の管理システムからJamfに移行する準備が整ったことになります。この場合も、進捗状況をモニタリングし、予期せぬ問題があればすぐに対処できるよう、グループ単位で行うことをお勧めします。



移行後のチェック



すべてのデバイスで移行が正常に行われたことを確認

ユーザを長く待たせては元も子もありません。移行に際してデバイスを回収していた場合は、速やかに返却しましょう。JamfとApple Business Managerがデバイスの構成を行ってくれるため、従業員はデバイスの電源を入れるだけで生産的に作業を開始することができます。



移行後のチェック

移行が完了したら、エクスポートしたデバイスインベントリとJamf ProまたはJamf Nowのデバイスインベントリを比較し、すべてが正しく登録・転送されていることを確認しましょう。また、このタイミングでユーザに個人のApple IDまたは管理対象Apple IDでデバイスにログインしてもらい、クラウドでホストされているデータを該当するアプリケーションに復元してもらおうことをお勧めします。



より良いソリューション への移行

MDMの移行は面倒なものだという印象を持たれている方もいるかもしれませんが、私たちは、お客様が既存のソリューションに別れを告げ、かねてから求めていた機能が盛り込まれたソリューションへと移行するために必要な知識や自信を手に入れられることを願って、このガイドを作成しました。

さらに細かいサポートをご希望の場合は、当社のProfessional Servicesチームによるデバイス移行サービスもご利用いただけます。有能で経験豊富なエンジニアたちが、業界のベストプラクティスを用いてお客様のコンプライアンス基準を満たし、セキュリティの面で妥協することなく、できるだけシームレスな移行プロセスを実現するためのサポートをご提供します。

さらにJamfでは、移行プロセスの途中や直後でも生産性を落とさずに業務を続けていただけるよう、必要なリソースも合わせてご用意しています。Jamf Professional Serviceの詳細については、Jamfの担当者までお問い合わせください。

無料トライアルでJamfのソリューションを体験してください。

[トライアルに申し込む](#)

